

岡山県立高梁城南高等学校 × JONANホールディングス株式会社

「公立高校(非商業系) × 株式会社 × 地域連携によるアントレプレナー教育と資金循環スキーム構築」



JONAN HOLDINGS



TAKAHASHI JONAN HIGH SCHOOL

岡山県立高梁城南高等学校

# 学びと地域貢献を可視化する 「学校版ソーシャルインパクト評価」指標の開発

2026年3月

実証事業者：高梁まなびとしごと未来共創コンソーシアム

(代表幹事 Happy Collaboration合同会社)

# 実証事業サマリー

## 商業高校以外で日本初、岡山県立高梁城南高校で「JONANホールディングス株式会社」を設立

地域連携によるアントレプレナー教育と資金循環スキーム構築  
【中間支援組織として「3つの実証」に取り組む】

公立高校の課題

予算不足  
(活動の制約)

リソース不足  
(商業教員不在)

制度上の制限  
(利益を出せない)

「ものづくり×ビジネス」で進化した学びを実現  
地域の未来を担う、起業人材・クリエイティブ人材の育成



TAKAHASHI JONAN HIGH SCHOOL

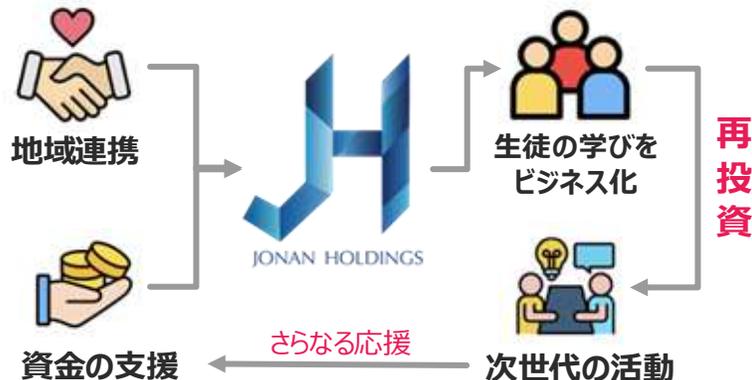
岡山県立高梁城南高等学校



### 実証①

## 高校×会社の最適設計と地域資金循環の仕組み

商業科のない公立高校で最適な会社の仕組みの設計、資金獲得と収益を次の活動へ再投資できる循環構築



### 実証②

## ローカルアントレ教育プログラムと伴走体制の構築

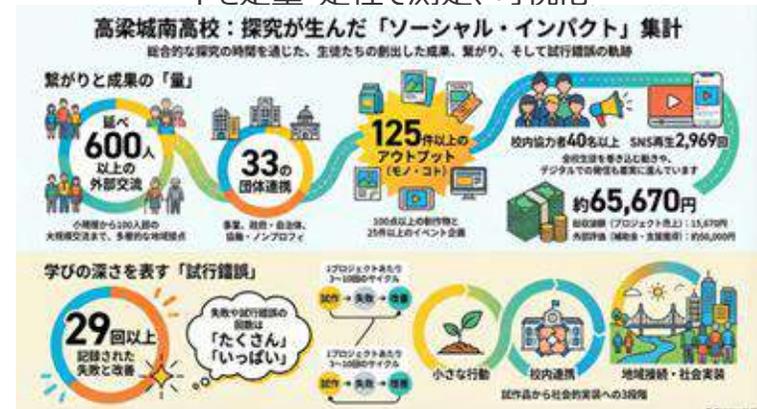
非商業高校でも可能な「ものづくり×ビジネス」教育と、事業化の伴走体制を地域の大学や起業家と連携して開発



### 実証③

## 学校版ソーシャルインパクト評価

利益以外に、生徒の活動が地域に与えた社会的インパクトを定量・定性で測定、可視化



# 1. 事業者概要 (コンソーシアム)



## コンソーシアム代表幹事事業者 Happy Collaboration合同会社 (代表 横山弘毅)

高梁市と岡山県立高梁城南高校、岡山県立高梁高校等との連携実績

### 高梁市「高校生みらい共創課」設立 高校生が職員として地域課題に取り組む



高校生が市の職員として委嘱され、地域創生に取り組む。  
高梁高校・高梁城南高校の探究学習と連携して実施 (2025年)  
<https://www.ohk.co.jp/data/26-20250416-00000012/pages>

### 「高梁みらい共創チャレンジ」の設立 中高生・大学生の活動に最大10万円助成



高梁市秘書企画課と連携、生徒の探究・地域活動へ助成する制度を創設  
<https://www.city.takahashi.lg.jp/soshiki/58/miraikyousoucharenjijigyou.html>

### 高梁市観光協会ユース支部を設立 中高生が職員として活躍



全国初の取り組み、放課後の有志活動として  
<https://www.sanyonews.jp/article/1723154>

### 岡山県立高梁城南高校 コーディネーター業務

全国でも例のない3つの専門学科コラボの探究の授業を推進、コーディネート。  
R6年度より「失敗の日」を企画実施。冒険的な学校組織文化に変革を起こしている。



### 岡山県立高梁高校 コーディネーター業務



### 岡山県教育委員会 高校CN伴走事業アドバイザー



# 1. 事業者概要（コンソーシアム）

## コンソーシアムメンバー・参画団体



松本 聡  
株式会社松本 常務取締役  
（旧・高梁工業高校OB）



三宅 祥晴  
株式会社三宅製菓本店  
代表取締役（5代目）



幹事

### アントレ教育プログラム開発



IPU環太平洋大学  
経済経営学部 現代経営学科  
大池 淳一 准教授

- 高梁市 県立高校魅力化推進プロジェクトチーム
- （株）中国銀行高梁支店、（株）トマト銀行、備北信用金庫
- 高梁商工会議所、備北商工会、
- 一般社団法人高梁市観光協会
- （株）天満屋、（株）吉備ケーブルテレビ
- 吉備国際大学社会科学部 経営社会学科 大西 正泰 研究室

参画メンバー

## 主な協力先



### 会社の最適設計

さきやま司法書士事務所  
崎山 晃史（司法書士）



### 会社の最適設計・伴走体制構築

株式会社ソフィアクロスリンク/株式会社ソフィア  
代表取締役 廣田 拓也



### 学校版ソーシャルインパクト評価開発

三菱UFリサーチ&コンサルティング株式会社  
上席主任研究員 阿部 剛志

### アントレ教育プログラム開発



瀬戸内と株式会社  
代表 山田 邦明

### アドバイザー



合同会社未来教育デザイン  
代表 平井 聡一郎

## 2. 背景と目指す姿

### 背景

#### 地方公立高校の予算・会計制度・人的リソースの課題

##### ① 公立高校の予算不足と会計制度上のビジネス活動の制限

- 予算不足により生徒の地域探究活動が制限されることが多い
- 県立高校の会計制度上、生徒が販売・収益活動が原則できない。  
(利益を出して、次の活動に投資することができない。)
- 行政の補助金や地域企業からの寄付など「支援への依存」になりがち（自走できていない）

##### ② 商業系教育が不在（消滅）地域では、地域の事業継承や創業人材の育成機会がない

- 「事業継承者の不足」「起業人材の不足」という地域課題がある
- 人口減少・高校再編等で商業系学科が消滅した地域では、そうしたビジネス人材・起業人材を育成する学びの機会がない

##### ③ 高校と地域の連携成果を測定する指標が存在しない

- 探究学習における「生徒の変容」を評価するルーブリック等は存在するが、「活動の地域影響」を測定・可視化する評価指標がない。（「地域貢献」「にぎわい創出」など曖昧な言葉でしか語られない）
- 非商業系高校でビジネス活動する場合、「利益」以外の成果指標も、教育現場で必要とされる。

### 目指す姿

#### 外部資源連携に向けた事例創出

多様な学びを実現するための  
人的・物的資源や教育資金の安定的な確保

各地方の公立高校生が  
「地域の未来を自らつくるプレイヤー」  
として「地域経済の担い手」に育っている

#### 具体的な人材像

- 人口減少社会で、事業継承・地域産業の担い手になる人材
- サービス受給者ではなく、主体的な地域の担い手
- 補助金頼りではなく、自ら稼ぎ、自立自走できる人材
- 価値創造できる「ものづくり×コト起こし人材」

#### 必要な資源や環境

- 所属学科にかかわらず、ビジネス・商業活動を実践できる
- アントレ教育や起業人材のロールモデルに触れる機会がある
- 公立校でもそうした教育活動の必要予算が確保できている
- 学校外・地域のステークホルダーの持続的な支援体制がある

## 2. 背景と目指す姿 - 補足

目指す姿

各地方の公立高校生が  
「地域の未来を自らつくるプレイヤー」  
として「地域経済の担い手」に育っている

「仕事がない」から「仕事を創れる人材」  
価値創造できる「ものづくり×コト起こし人材」  
自ら稼ぎ、自立自走できる人材・地域の担い手

人口減少・高校再編による  
「学びの空白地帯」

●は商業高校・商業系学科・コースのある高校

商業教育  
空白地帯



「3つの専門学科」の学び  
「ものづくり」を「ビジネス」につなげたい



電気科

電気工事  
ロボット  
プログラミング  
ゲーム制作  
3Dプリンター  
CAD



デザイン科

絵画  
ポスター  
アニメ制作  
木工  
金属加工  
プロダクト  
インテリア  
建築設計



環境科学科

農業  
キノコ栽培  
花栽培  
食品・調理  
6次化商品開発  
カフェ運営  
環境・自然  
保育・福祉

過去に多数の地域連携プロジェクト実績



地域課題:「事業継承者の不足」「起業人材の不足」

But 人口減少・高校再編等で商業系学科が消滅した地域では、ビジネス人材・起業人材を育成する学びの機会がない。

→ 学びの多様性・選択肢が確保できていない

公立高校×株式会社



商業系学科のない高校で  
地域の協力でリソースを補うことで  
株式会社設立に挑戦

これまで = 稼げない

- 制度の壁（「公立だから」）
- 教える人・伴走する人がいない
- 元手になる資金もない

### 3. 実施体制・実証フィールド

実証事業者

高梁まなひとしごと  
未来共創コンソーシアム



実証対象

JONAN HOLDINGS

岡山県



実証対象  
高梁市



高校はJR備中高梁駅から徒歩5分  
(岡山駅→備中高梁駅 特急で35分)



実証対象



岡山県立  
高梁城南高校  
電気科・デザイン科・環境科学科の3学科  
全校生徒300人強の専門高校



岡山県中西部の自然豊かな中山間地域

# 実証内容

## 商業高校以外で日本初、岡山県立高梁城南高校で「JONANホールディングス株式会社」を設立

地域連携によるアントレプレナー教育と資金循環スキーム構築  
【中間支援組織として「3つの実証」に取り組む】

公立高校の課題

予算不足  
(活動の制約)

リソース不足  
(商業教員不在)

制度上の制限  
(利益を出せない)

「ものづくり×ビジネス」で進化した学びを実現  
地域の未来を担う、起業人材・クリエイティブ人材の育成



TAKAHASHI JONAN HIGH SCHOOL

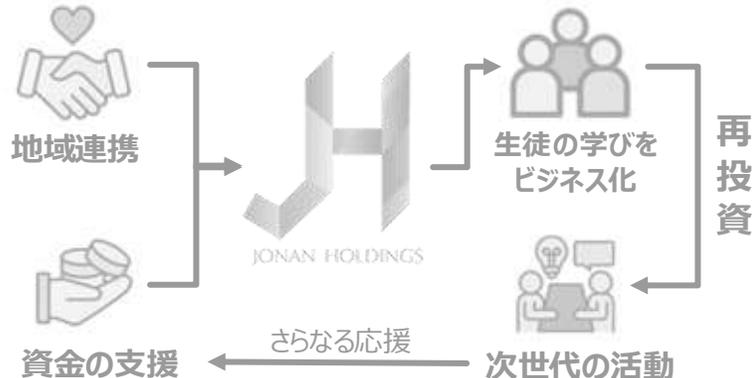
岡山県立高梁城南高等学校



### 実証①

#### 高校×会社の最適設計と地域資金循環の仕組み

商業科のない公立高校で最適な会社の仕組みの設計、資金獲得と収益を次の活動へ再投資できる循環構築



### 実証②

#### ローカルアントレ教育プログラムと伴走体制の構築

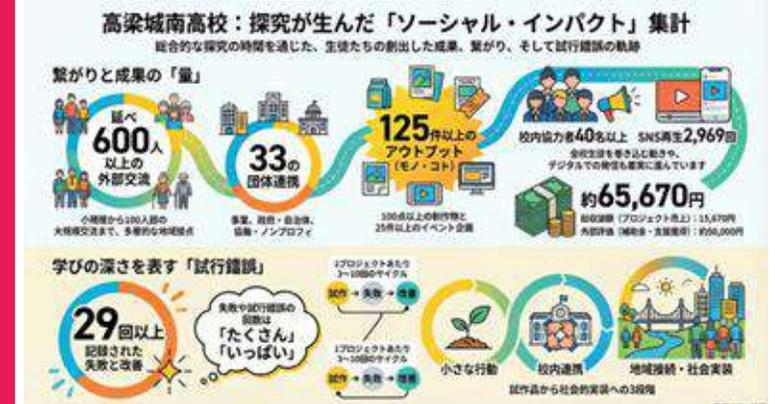
非商業高校でも可能な「ものづくり×ビジネス」教育と、事業化の伴走体制を地域の大学や起業家と連携して開発



### 実証③

#### 学校版ソーシャルインパクト評価

利益以外に、生徒の活動が地域に与えた社会的インパクトを定量・定性で測定、可視化



# 学校版ソーシャルインパクト評価指標の開発

## 生徒の探究やビジネス活動を「利益以外」の「指標」で、地域社会への好影響を「見える化」する

ポイント：①目指す最終成果（起業・コト起こし人材の輩出）につながる ②継続的な支援獲得につながる ③他校に横展開できる汎用性

	検証項目
指標開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利益以外に、生徒・会社の活動が“地域社会”に及ぼす好影響を「見える化」する指標とは？</li> <li>● 最終的な「目指す成果（会社のプロジェクトが起こしたい社会と学びの変革）」につながる指標とは？</li> <li>● 継続的な資金支援等につながる指標とは？</li> <li>● 探究学習・PBLにも共用できる評価指標は？</li> </ul>
運用面	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育現場で無理なく運用できる評価とは？（集計負荷が少ない、生徒にもわかりやすい等）</li> <li>● 他の高校・地域で展開できる汎用的な指標とは？</li> <li>● 評価の的確性は？（データとしての客観性）</li> </ul>

結果（実証の結果、最適な形は何か）
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「利益」が生まれるプロセスを分解し、「手前」で発生する出来事（例：ありがとうの数）を「中間指標」として社会的インパクト評価の指標とする（利益→売上→感謝→解決・貢献→交流）</li> <li>2) 目指す最終成果（実現したい社会や学びの姿＝起業・コト起こし人材の輩出）につながる生徒の意識変容を指標にする</li> <li>3) 高校生に好影響を受ける「関わる大人の意識変容」も指標に置く</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 同じ項目でも「数値（定量）」と「エピソード（定性）」の両方で振り返り→回答させる（例：感謝の数と印象に残ったありがとうは何？）</li> <li>2) カウント基準や曖昧さの許容ラインを示すことで回答・集計しやすくする</li> <li>3) 活動効果を数値化しやすくする、「振り返りシート」に落とし込む</li> <li>4) 生成AIの活用で、効果的にビジュアル資料化する</li> </ol>

## 企業におけるソーシャルインパクト評価の事例



### 例) ADDRESS株式会社

ADDRESS社は、全国各地で運営する295の住居（2023年8月現在）を会員同士でシェアする多拠点生活サービスを展開。同社が目指す「多拠点生活」と浸透と社会的インパクトを検証、重要事業指標として公開している。

## 実証後の成果 アウトプット

実証対象

検証協力先

## 日本初の「高校版ソーシャルインパクト評価」の プロトタイプを開発、他校・地域で利用可能に

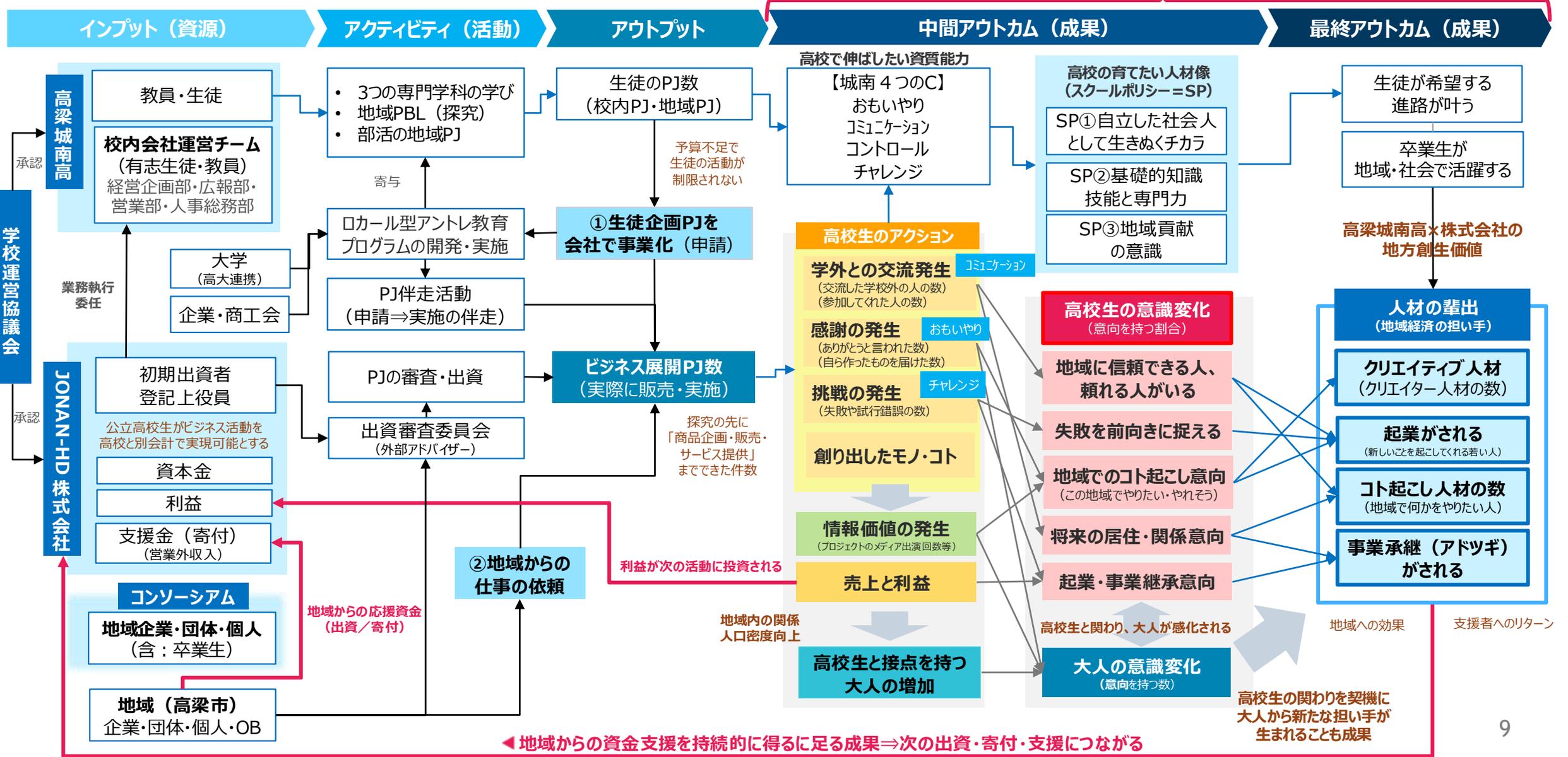


引用：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000037.000040352.html>

# 学校版ソーシャルインパクト評価指標の開発

ステップ1：高校×株式会社のロジックモデルを策定し、「評価指標の軸」を議論

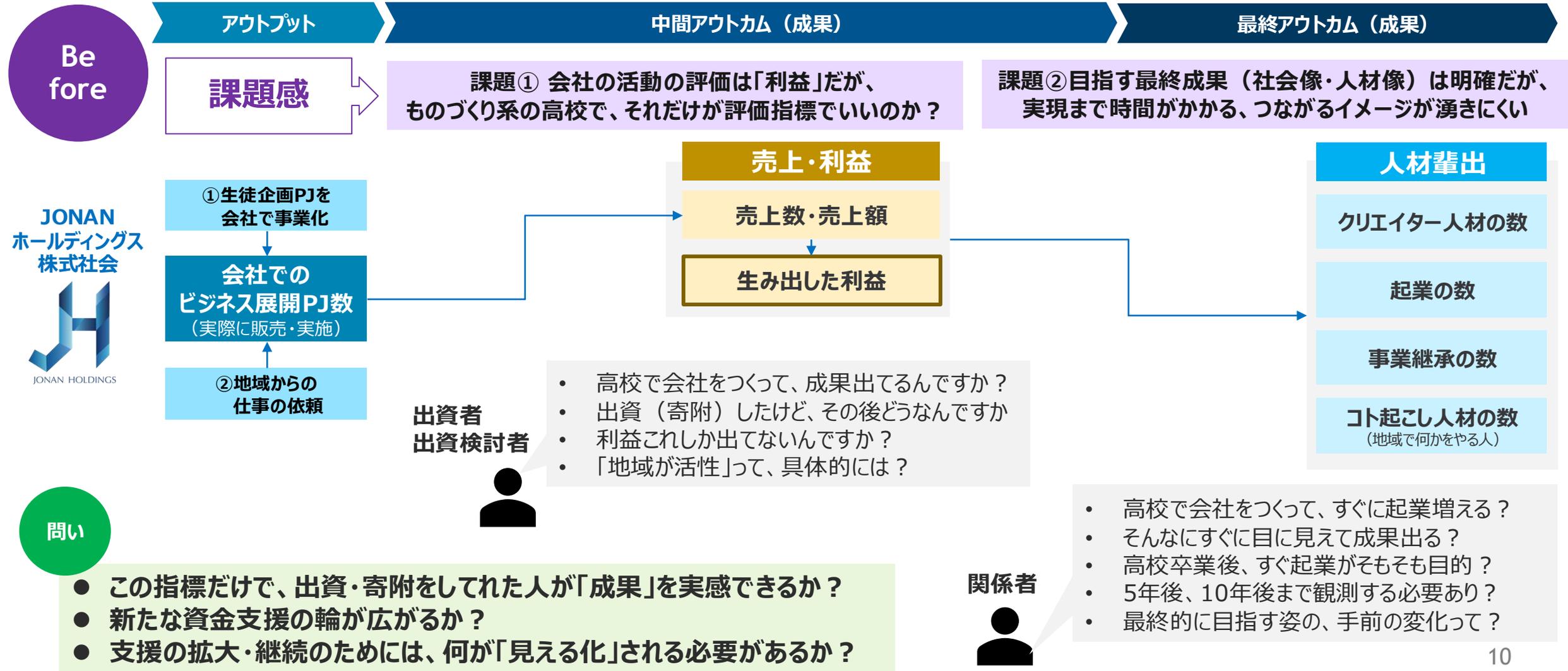
インパクト評価に関わる部分（詳細は次項）



◀ 地域からの資金支援を持続的に得るに足る成果⇒次の出資・寄付・支援につながる

# 学校版ソーシャルインパクト評価指標の開発

## ステップ2：ロジックモデルで整理した論点から、高校生の活動の社会的インパクトを見える化する評価指標を検討





# 実証③ 学校版ソーシャルインパクト評価指標の開発

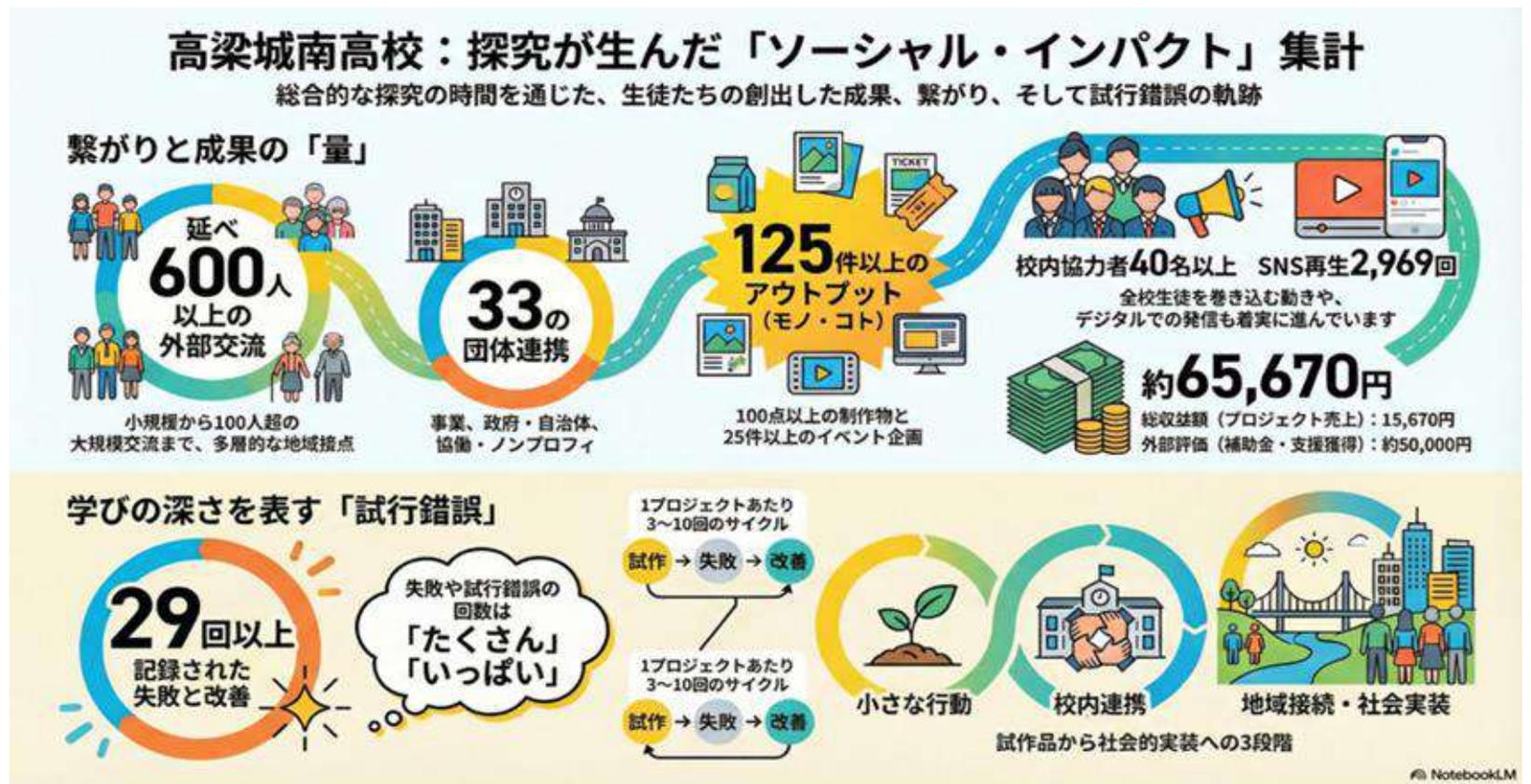
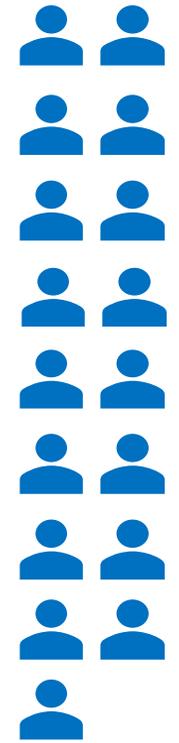
## ステップ3：学校版ソーシャルインパクト評価のプロトタイプを作成、探究の授業でテスト運用

高梁城南高校の探究学習の最終発表会で、全17チームの活動の社会的インパクト評価を行い、集計。

1/28 2年生 探究の最終発表会



全17チーム 活動を集計 数値化



## ステップ3：学校版ソーシャルインパクト評価のプロトタイプを作成、探究の授業でテスト運用→検証

## 活動を「見える化（定量化・数値化）」する「意義」と「難しさ」が浮き彫りに

- 可視化されることで、活動の意義や効果を実感できる → 前提：そもそも、活動のリフレクションが十分にされている必要がある
- 「感謝の数」「失敗の数」など、どうカウントするか曖昧なものは書きづらく、基準を明確化するor大体でもOK、という提示が必要

### ポジティブな反応：「可視化」がもたらした「実感」

Theme: Visualization & Realization

数値化することで関わった人の数や喜ばせた人の数が正確にわかり、達成感や満足感が得られた。

校外と校内の協力してくださった人数を書くことで、思い返したときにありがたく楽しかったと感ずることができた。

書いてみてよかったことは「失敗の数」。振り返ることで反省につなげることができた。

沢山の人に買われたことを再認識することができた。

Modern Academic Editorial

### ネガティブな反応：指標の「曖昧さ」と「形式」の壁

Theme: Ambiguity & Quantification Limits

ありがとうと言われた数・感謝された数が明確に把握できず、書きづらかった。

物理的なモノを作る題目ではないため、「創り出したモノ・コト」が書きにくかった。

失敗や試行錯誤の数について、基準が分かりづらかった。（数が大切なのか？）

動画が未完成でどこまで書いてよいか迷った。

## Point

- 定量（数値）と定性（エピソード・具体的場面）の両面で、活動を振り返るシートに改良 → 質の面も拾い上げる
- 「感謝の数」「失敗の数」など、カウントの基準が曖昧なものは、基準を明確化する or 大体でもOK、という提示する

# 学校版ソーシャルインパクト評価指標の開発

## ステップ4：改良した「学校版ソーシャルインパクト評価」を「会社」の半年間の活動に適用

①活動の定量化（利益の前段階・周辺の指標） ②最終成果につながる高校生の意識変容 ③大人の意識変容 を可視化。

### JONANホールディングス ソーシャルインパクト評価レポート(2025.7 - 2026.2)

全国初の公立高校による株式会社設立プロジェクトが、地域・生徒・大人に与えた多角的な影響(数値と変化)を可視化し、活動の価値を伝える。

#### ZONE 1：活動の定量化実績 (2025年7月～2026年2月)



外部イベントや講義を通じ、1,220名を超える多様な人材と対話。専門家やクリエイター交流。



地域企業、教育機関など、20の団体が活動をサポート。校内でも30名の先生や友人が協力者としてプロジェクトを支えた。



株式会社の設立をはじめ、ロゴ、名刺、HP、銀行口座などから、ステッカーや商品パッケージまで幅広く創出。



チーム内の不協和音や規約ミス、書類の書き直しなど、最大50近い「やらかし」を経験。



イベント参加時の感謝の言葉や、提携者からの称賛など、感謝のエピソードが50件以上寄せられた。



読売新聞(全国版)、日本テレビ系列での放送など。広告換算価値は約1,500万～2,500万円相当に達し、全国的な注目を集めた。



初期資本金10万円に加え、地域や外部からの応援による寄付金が37万円集まった。



2026年2月時点の見込み数値。実社会でのビジネスサイクルを回す第一歩を踏み出した。

#### ZONE 2：高校生の変容(アンケート結果)



「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組めるようになった」と回答した生徒が、9割を超えた。



「失敗をポジティブに考えられるようになった」と回答。失敗を恐れない「Challenge」の精神が育まれている。



高梁市(地域)に今後も携わりたいと8割以上の生徒が回答。学校と地域のシームレス化により、将来的なリターンの可能性上にも寄与している。



将来のことを話し合える大人の存在を実感。地域に尊敬できる大人がいると答えた生徒も8割以上にのぼる。

#### ZONE 3：関わった大人の変容



プロジェクトに関わった大人の全員が「やる気が上がった」「もっと行動を起こそうと思った」と回答。

「高校生の姿に、大人もやる気が湧く」

失敗を恐れず挑戦する生徒を見て、「私もこんな高校に選んだかった」「大人がもっと知るべき指標だ」といった感動の声が寄せられている。

高校生の意識変容は、会社運営メンバーも含めた3年生のアンケート回答の数値から抜粋

大人の意識変容は、1/28探究の最終発表会の参加者アンケート回答の数値から抜粋